

日時	令和5年10月18日（水）14時30分～16時
場所	一宮市教育センター 第1研修室
出席者	委員12名（鈴木、春日井、土川、長谷川、小島、町田、五藤、伊藤之、芳賀、江藤、伊藤実、森）

1 開会のことば

2 一宮市教育委員会あいさつ（教育長）

3 報告事項

(1) 令和5年度いちのみやモデル事業（5つのモデルケース）の進捗状況について

○ 事務局から以下のように報告があった。

- ・申込希望が（10/17現在）、バレーボール男子65名、女子80名、サッカー64名、剣道64名、柔道29名、吹奏楽は調整中。バレーボールは定員を超えたため、抽選を行う予定。

(2) 小委員会からの意見（まとめ）について

○ 事務局から以下のように報告があった。

- ・指導者確保のためには、経費を確保して広く人材を募集して欲しいという意見や、人材バンクのような登録できる場所の確保、学生ボランティアの募集が必要ではないかという意見が出た。

4 協議

(1) 令和8年度以降の休日部活動地域移行後の全体像（案）について

○ 事務局から以下のように提案があった。

- ・休日部活動地域移行後の全体像について、市内中学生が参加できる場所は、「既存団体」「民間団体などの外部機関によるクラブ」「一般の方が指導するクラブ」「希望する教職員が指導するクラブ」等となる。外部指導者や部活動指導員についても、当面は活用しながら地域の指導者になっていただきたい。

○ 既存団体は、事務局の枠から外に出ているが、地域移行の受け入れ団体の登録をすれば、関わってくる可能性があるのではないか。

(2) 令和6年度いちのみやモデル事業について

① 民間団体など外部機関によるモデルについて

○ 事務局から以下のように提案があった。

- ・来年度はさらに種目を広げていきたい。部活動も並行して活動がある移行期間になるため、保護者負担を減らしながら参加者を確保し、モデル事業としての検証をしていきたい。

○ 運動場や体育館の他に教室や音楽室等、学校はどこまで開放できるのか。開放するにも鍵の管理はどうするのか。事業を増やすにしても場所の確保が大変である。

○ 実施団体の参入条件をあまり窮屈に限定すると子どもが困る可能性がある。参加生徒の集まり具合によって、柔軟にそれぞれが考えていくスタンスの方がよいのではないか。

○ これまでの部活動は1つの種目を徹底的に追求する形であったが、今の子どもたちはモデル事業をうまく活用し、さまざまなことを学んでいくことができるチャンスの方が多くあるように思う。

② 教職員モデルについて

○ 事務局から以下のように提案があった。

- ・地域ごとの生徒で休日部活動を行いたい教職員が指導者となるパターン1、自校のみの生徒で休日部活動を行いたい教職員が指導者となるパターン2を考え、パターン1については、来年度モデル事業として検証していきたい。

○ パターン2だと教員が異動すると大変であるが、地域の方とタイアップしていくと教員が異動しても地域の方はクラブに残るので、新年度に活動できなくなるということが避けられると思う。

(3) その他

○ 学校の部活動に関する現状の考えについて、委員から以下のように報告があった。

- ・学校の部活動に関して、学校単位で土日両日部活動を行わない週を今年度の月1回から来年度は月2回設けることや、平日部活動の最終下校時刻を徐々に早めていくことを市内で統一している。

○ スポーツ協会との連携について、事務局から以下のように報告があった。

- ・スポーツ協会と中小学校体育連盟が連携していけるよう、種目ごとに話し合いの機会を設け、よりよい方法を模索していきたい。

5 一宮市教育委員会あいさつ

6 閉会のことば